



願望

山里と川口川が美しい！

川のせせらぎには

はや、鮎、どじょうが：

川上には、山女、沢蟹、河貝子が：

山間のハケには、サンショウ魚が：

空には、あげ雲雀：

林の梢には、鶯、おおるりが：

春は花々で里が微笑む

そして貴重な文化財が：

心豊かなこの町を：

(西久保から北西を望む)

◇散歩のみどころ

今熊バス停から秋川街道を東へ約5kmの行程。山桜の巨木が見事な福寿寺へ。吉祥院跡から牛頭天王の伝説がある牛頭橋から牛頭天王祠跡へ。東岳院、福泉寺跡を通り上川口小学校裏山へ。秋山家の板碑群、山椒魚の生息地がある。旧道に戻り、更に東へ。畠山重忠お手植えの桜や、モリアオガエルで有名な大仙寺に着く。旧大仙寺入口を通り、田守山の剣の碑を見ながら田守神社へ。重忠伝説や獅子舞いが有名。さらに上川トンネル手前の鎌倉古道を左へ、暫くすると伝説の重忠御前石に着く。来た道に戻り、霊園内の黒八丈の碑を見学し、更に下って再び鎌倉古道に入る。途中、金山様や田守神社の雨乞い跡を通り、戸沢の馬頭観音堂へ。堂前には、古道の道標や地藏尊が建っている。更に、秋川街道を東へ。川口川の日向橋を渡り、牛頭天王の石碑がある熊野神社へ。そして、阿吽の龍で有名な三光院で解散。

①南極山福寿寺

上川町三九九八

宗派 臨済宗建長寺派

本尊 釋迦如来

開山 劫林永禪師

開基 不明

開創 元龜元年（一五七〇）

八王子で鎌倉建長寺末寺は当山だけである。多年に亘り無住が続き、記録等無く不明な点が多い。大正四年（一九一五）頃糶谷にある天珠山吉祥院と合併した。久保に明王山東岳院があり、明治四十四年頃美山町馬込向戸山養福寺と合併したが、昭和二十年の八王子空襲で堂宇焼失廃寺となったため、昭和二十三年当山と合併した。上川口小学校が災禍に遭った時、暫くこの寺を借りて授業をしたことがあるという。境内には四月上旬が見頃の山桜の巨木が花を咲かせる。秋の紅葉も美しい。本堂天井画の龍も見応えがある。



「龍」画 馬來愛岳氏



福寿寺

●天珠山吉祥院跡

上川町小路ヶ谷戸

宗派 臨濟宗広徳寺末

本尊 聖観音

開山 玉岫上人

開創 不明

大正年間に福寿寺に合併廃寺。

福寿寺から出て東へ、帝京八王子
 高校へ向かう農道を暫く行くと社会
 福祉法人「希望の里」の白い建物が
 見える。その西側の道隅に庚申塔と
 地藏尊が安置されている。以前は希
 望の里の東側にあつたといわれ、道
 路や建物の区
 画整理で今の
 場所に移動し
 たという。建
 物の奥が吉祥
 院跡といわれ
 ている。



希望の里脇の庚申塔



羽生橋



希望の里
 この辺りが吉祥院跡



糞谷橋



糞谷近くの川口川

ごとうばし

② 午頭橋

上川町

吉祥院跡から川口川の羽生入橋を渡り、さらに秋川街道の糞谷橋を渡ると左の川上農村環境改善センターへ行く道がある。そこに「午頭橋」という名前の橋がある。

字名で北久保や後藤ヶ谷戸といわれる場所には「牛頭天王」にまつわる伝承が残っている。理由は定かではないが「午頭橋」は「ごず」といわず「ごとう」と呼ばれている。



午頭橋

ござてんのう

③ 牛頭天王祠跡

上川町



午頭橋近くの川口川

川上農村環境改善センター裏山に牛頭天王を祀ったといわれる跡が残っている。今は木々が生茂り藪の中に高さ二十五cm、長さが五十cm程の自然石が安置されている。この周辺は後藤ヶ谷戸と呼ばれ、牛尾（うしお）家の邸があったと思われる池のような水溜りが残っている。戦後の初めごろまで近所の者が幣束を奉り灯明をあげていたという。

● 牛頭天王伝説

八王子城が落城した天正十八年（一五九〇）六月二十三日、北条家
家臣大石照基は、配下の武将に、八王子城の守護神、「牛頭天王」の御神体の城外への持ち出しを命じた。

御神体を密かに祀り、武将が住みつけたのがこの地といわれている。その武将が牛頭（ごず）の姓を名乗ることを憚り、「牛の頭」ではなく牛



牛頭天王祠跡の石

の尾に変え「牛尾」と改姓したという。詳細は不明だが子孫は八王子千人同心の牛尾善十郎ともいわれている。

また「牛頭天王の川流れ」「裏宿天王川流れ」などといわれる牛頭天王の川流れ伝説も伝わっている。どういう理由で流れたのかは定かでないが、伝説はこうである。

その昔、御神体が川口川から延々3km以上も流され、浅川の合流地点から浅川に入り今の浅川橋周辺の岸に辿り着いたという。拾われた御神体はやがて八幡神社に奉られた。

横山町界隈の古老の話では昔、浅川では水神様を祀るため御輿を水の中に入れ洪水や水難の事故を鎮める行事が行われていたという。これとインドの祇園精舎の守護神、また薬師如来の垂迹(すいじやく)それに徐疫神といわれる牛頭天王と結びついたのでないかという。



上川農村環境改善センター

● 明王山東岳院跡

上川町(久保)

宗派 臨済宗五日市戸倉光巖寺末

本尊 十一面観音

開山 矢叟上人

開創 不明

明治初年養福寺に合併され廃寺。

午頭橋から秋川街道に戻り吉祥院跡の道に出る。田園風景の広がる農道を少し行くと字名で西久保と久保の場所に出る。その山里の奥が寺の跡だという。久保の道角には当時を忍ばせる、石塔、地藏尊等五基それに庚申塔が安置されている。



路傍にある東岳院の庚申塔等



林の奥が東岳院跡

● 清流山福泉寺跡

川上町（日影）



午頭橋近くから川口川を望む

宗派 臨濟宗五日市戸倉光嚴寺末

本尊 薬師如来

開山 海空上人

開創不明、明治初年廃寺。東岳院跡の地藏尊から更に少し行くと「おつぼね沢」という谷戸に出る。谷戸の奥まった所に福泉寺があったという。その寺跡の名残と思われる卵塔墓地に地藏尊、石塔それに寶篋印塔と思われる宝珠が路傍に安置されている。また福泉寺跡の東側の「おつぼね沢」は名前から「局」と書くのが普通だが、詳細は不明とのこと。



福泉寺跡 路傍の地藏尊等



おつぼね沢

④ 板碑群

上川町（佐入）

上川口小学校の近くに秋山家の墓がある。その一角に数枚の板碑が整然と安置されている。石塔の裏にはまだ整理前と思われる板碑が十数枚積み重ねてある。以前はこの付近に点在していたのを、秋山家の墓に集め保存したと聞く、貴重な文化財である。

ところで板碑は鎌倉時代以後、慶長年間（一五九六〜一六一四）ころまで追善供養、逆修供養などのため特に関東地方で盛んに作られていた石造塔婆の一種で板石塔ともいわれている。

板状の石の頂部を三角形にし、その下に二条の切り込みを作り、さらにその下に梵字、仏像、法名、華瓶（けびょう）などを刻むのを普通としている。



安置されている板碑



秋山家の墓

● 山椒魚の生息地

上川町一帯の北斜面からは、ところどころに清水が湧き出ている場所があり、清水の出ている所には、「サンショウウオ」が生息している。



サンショウウオ生息地

⑤ 田守山不動院大仙寺

上川町三五〇二

宗派 真言宗豊山派大悲願寺末

本尊 不動明王

寺宝 薬師堂（石仏）

開山 頼空上人

開基 源実朝

開創 建暦二年（一一二二）

鎌倉時代、順徳天皇の時代。

天正十八年（一五九〇）八王子城攻略の時兵火により焼失したが、慶長七年（一六〇二）源宥僧都が再興している。慶安二年（一六四九）には朱印八石六斗を賜り田守神社の別当寺でもあった。

大仙寺は幾たびか火難にあっている。本尊の不動明王は焼損はあるものの現存している。焼ける前の建物は東向きで鎌倉古道を見下ろす位置にあったという。戦乱の中世紀には秩父から武士団の見張り役をした修験僧が往き来していたともいわれている。また、ごぜ（警女、御前）の

演奏許可状なども保存されている。
今は無住の寺となっている。

大仙寺の参道を北へ、秋川街道を渡り旧道に出るとところに高さ3m程の石刻の塔がある。台座には明治十三年三月奉納「田守山大仙寺」と記されている。振り返って長い直線の参道を見ると以前はここが大仙寺の入り口であることが判る。



大仙寺



鐘楼と薬師堂



桜の大木



お手植えの桜

⑥重忠お手植えの桜

上川町三五〇二

大仙寺境内入り口の地藏尊脇に畠山重忠の「お手植えの桜」と言い伝えられる古木の桜がある。確証は無いが、重忠の軍勢が網代の山越えや戸沢峠越えのためこの付近で小休止をしたという。そのときに桜(山桜)を植えたという。この外、重忠橋など重忠に関係する名前がこの付近に残っている。

● 畠山重忠

長寛二年（一一六四）〜元久二年（一二〇五）鎌倉初期の武士、武蔵国畠山荘の荘司重能（しげよし）の子。源頼朝挙兵当初は平氏に属して頼朝に敵対したが、のち頼朝に服属木曾義仲、平氏の追討や奥州征伐に戦功を立てる。

頼朝の死後はその遺沢を受け頼家を補佐。元久二年北条氏と争い、武蔵二俣川で死亡した。



旧 三光院入口



畠山重忠
江戸時代「前賢故実」
より 画：菊池容斎



庚申塔石碑



田守山の剣の碑

● 経塚山

おつぼね沢脇の山道を二十分ほど登ったところに地元では「経塚山」といわれる小高い山がある。明治の頃この山から経筒が出土したことから経塚山と呼ばれるようになった。経筒は東京国立博物館に収蔵したといわれているが、ちなみに明治五年（一八七二）に日本最初の博物館は湯島聖堂、明治十五年現在地の上野に移転。

上川町



道の奥が三光院

ところで経塚山には狼伝説が残っている。

経塚山に狼が棲んでいた。狼は毎年のように子供を産んでいた。

ある季節を迎えると毎晩のように狼が唸るので地元の人たちは「狼のお産が始まったんだべえ！ 何か食べる物んでも持ってってやるべえか！」といって、毎日塩だのお赤飯だのを重箱に詰めて狼様の棲んでいる洞穴近くにお供えをしたと。

翌朝、お供えをした人が家の雨戸を開けると空っぽのお重が縁の下にちゃんと返してあったという。

山頂の木の根に高さ五十cm幅三十cm厚さ二十cm程の石がある。この石は人口的に運んで来たもので、付近には無い。この場所で経筒が発見されたと云われているが確証はない。



経塚と思われる祠石か



山頂付近

⑦ 田守神社

上川町(田守) 二二〇八

勧請 不明

祭神 大己貴命

(おこなむちのみこと)

応神天皇(おおじんてんのう)

創建 不明

例祭 四月三日

一説には順徳天皇の時代、田の守の護神として奉斎したという伝承が



経塚山山頂

ある。昔は古明神と称していたが、成小（嗚呼）ヶ谷戸に移して田守明神社と改称、豊年万作の祈願としたという。また小名田守の名をとって田守明神社としたとの伝承も残っている。

古くは古明神の地にあったが、川の氾濫で今の成小ヶ谷戸に移ったといわれている。ところで古明神の地にあったころ、畠山重忠が行軍の途中袂から石を取り出し地元民に授けたという。この石を神社に祀ったので「たもと神社」になり、その後田守神社と呼ばれるようになったという。

また重忠がこの地で休んだ折、兜から金の幣束を落とし、それを神社に祀った等の伝承がある。神社の傍には今も雨乞い池があることから、田を守る神社である。

また田守神社の祭礼には五穀豊穡、雨乞祈願として獅子舞が奉納される。毎年八月最終日曜日、かつては春に行われたこともあるという。



祭神様



田守神社



田守神社の獅子舞



雨乞い池

⑧重忠の御前石伝説

あきる野市へ行く途中、上川トンネル手前を左へ入り、山道を暫く行くと左に石灰岩の白い大きな石がいくつも見える。地元の人はこの石を御前石と呼んでいる。

重忠行軍の折ここで馬の手綱を石穴に繋いだという石や、馬の足跡といわれる跡が残っている。



明神橋下を流れる川口川



御前石

重忠が腰を掛けたという石や馬を繋いだという石などがある



馬の蹄跡



馬の手綱石穴



馬の手綱を石穴に繋いだという石

⑨ 黒八丈の碑

上川町（田守）

上川霊園に入り、大きな池の手前に「八王子織物黒八丈発祥之地」と刻まれた高さ一・二m程の記念碑が北向きに建っている。この碑は昭和五十三年八月、郷土史研究会により建立されたもの。以前は上川霊園入口の脇に建っていたが、霊園内の道路や駐車場の拡張のため現在地に移動したもの。本来は五日市が本場といわれているが、黒沢の地名があるようにこの地でも土が採取されたという。



黒八丈の碑

⑩ 旧重忠橋

上川町（田守）

黒八丈の碑から少し下った、あきる野市へ行く道を跨ぐように川口川へ注ぐ川がある。そこに架かっている橋が「旧重忠橋」という。八王子同友会ホームへ行く入口の道である。今は暗渠になってるので判りにくい。また川口川に架かっている橋を「重忠橋」と呼んでいるが、旧名は「中組橋」と呼んでいたという。



重忠橋（中組橋）

⑪ 鎌倉古道と碑

上川町（田守）

旧重忠橋の少し手前を右へ通ずる道が鎌倉古道である。入口には碑が建てられている。碑から少し歩き橋を渡り、直ぐ右へ曲る道が鎌倉古道であるが、今は畑の中に埋れ、秋川街道に出る間、僅かに残っているだけである。ちなみに秋川街道を横断し戸沢峠までの道は現存し、途中古道の碑が建っている。



旧 重忠橋



鎌倉古道

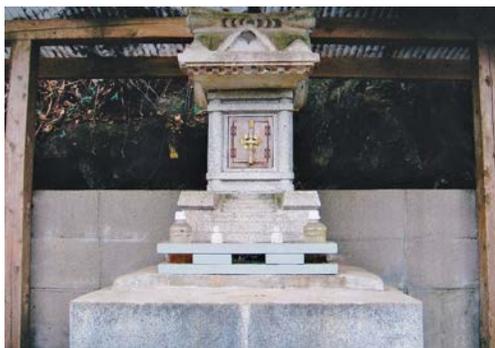
⑫ 金山様と五輪塔

上川町（田守）

金山橋を渡ると左手斜面の上に、金山神社がある。創建年代は明治の中頃といわれているが定かでない。地元こんな言い伝えが残っている。昔、小谷田家と水島家が資本を出し合い金鉱を探した。直径二m程の横穴で相当深く掘ったという。夜通し地面に耳をつけて音を聞き取り耳を澄ますと地底から唸りが聞こえたと



写真右下の畑が鎌倉古道



金山様

いう。結局鉱脈には当たらず、直ぐに止めたという。ちなみに鎌倉古道を通り戸沢峠に出る脇にも金穴跡や水車小屋の跡があったという。また金山橋から少し行つた関場農道と秋川街道へ出る三叉路斜面には、五基の五輪塔が安置されている。形や大きさから、江戸期のものと推察できる。近くに住む屋号で鍛冶屋という三沢家の古老の話では、先祖が鉄砲鍛冶をしていたところに建立したとのこと。詳細は不明。



五輪塔

● 田守神社の雨乞行事

今の東田守橋脇で最近まで雨乞いの行事が行われていた。その龍神雨乞祈禱文句によると、

「さんげさんげ六根清浄

おしめり初代こんごうじょう

南無永代神仏宮五穀じょうじゆ

愛民農事の一封如来

あい南無祈命頂来」

と唄いながら五穀豊穰の雨乞祈願を行ったという。



雨乞い行事の東田守橋付近

⑬ 戸沢の馬頭観音

上川町(戸沢)三三五一

東田守橋を渡り秋川街道に出て左に折れ少し歩いたところを右へ曲る(新関戸橋の手前)。その細道が戸沢峠へ通ずる鎌倉古道である。鎌倉古道碑を右へ入ると観音堂である。

この観音堂は三光院の別当で、天正年間(一五七三〜九二)甲州武田家の家臣水島将藍がこの地に落ち延び農民となる。その子五郎兵衛が小さな持仏堂を建て馬頭観音を安置し



戸沢の馬頭観音堂

たのが創めという。八王子三十三観音霊場で馬頭観音は珍しいという。観音堂前の路傍には地藏尊、道標それに鎌倉古道の碑が建っている。また水島家の墓には伊那石で彫られた珍しい板碑がある。



観音堂前の鎌倉古道



観音堂前の道標と地藏尊



鎌倉古道の碑



道標

水島将藍の子孫といわれる水島家が観音堂の前にある。庭の隅には珍しい聖徳太子を祀った石碑が二基建てられ保存されている。歴史的考察や年中行事等は一切判らないという。ただ大工職人衆が講中をしたのではないかと伝えが残っている。水島家の裏山には八幡社がある。

上川町

● 聖徳太子講の碑



伊奈石の珍しい板碑
(観音堂脇 小島家の墓)

⑭ 上川の熊野神社

上川町（日向）三〇八九

勸請 川口次郎大夫

祭神 高皇産霊尊「高御産巢日神」
（たかむすびのみこと）

建速須佐之男命（たけはやの
すさのおうのみこと）

創建 不明

例祭 八月最終日曜日

秋川街道から少し入り川口川の日向橋を渡ると熊野神社に出る。



聖徳太子講石塔



日向橋（熊野神社入り口）

明治二十年（一八八七）黒沢の熊野神社と三和田の八雲神社と合祀、村社となる。八雲神社の創建は不明。鳥居の右下には牛頭天王と刻まれた石燈籠や疫病除けの石仏が安置され、社殿内には「疫神宮」の木札が残っている。牛頭天王との関係を見ることが出来る。

また武蔵七党のうち西党の三代地頭川口次郎大夫が熊野三山神社を勧請したとも伝えられている。



牛頭天王の石碑



熊野神社

⑮ 聖学山三光院 永徳寺

川上町三二〇〇

宗派 天台宗高月円通寺末

本尊 阿弥陀如来

開山 良弁上人

開創 建暦二年（一一二二）

古くは真言宗であった。上川の馬頭観音堂の別当寺でもある。慶安元年（一六四八）三代將軍家光より朱印十六石三斗を拝領している。証と



石灯籠・疫病除けの石仏

して本堂の大棟には葵紋が施されている。山門虹梁の表裏には見事な阿吽の龍が彫られている。現在の堂宇は昭和五十五年に建立。
また昔の階段跡を登り切ると旧本堂跡に出る。立派な石碑が建立されている。度重なる火災で今の本堂へ移ったという。階段先の斜面上の左脇に供養碑と思われる古い笠付石塔が昔を偲ばせている。



三光院山門
梁に阿吽の龍



吽の龍



阿の龍



三光院本堂跡



三光院本堂



三面地藏塔

◎参考資料

- ・ 新編武蔵風土記稿
- ・ 武蔵名勝図絵
- ・ 八王子市史
- ・ 八王子事典
- ・ 八王子郷土資料館資料
- ・ 図説・歴史散歩事典
- ・ 歴史と浪漫の散歩道
- ・ 八王子寺院めぐり
- ・ 歴史読本
 - ・ 日本の神社・神さま入門
- ・ 日本史総合図録
- ・ 郷土史
 - ・ 八王子川口郷土史研究会
- ・ インターネット各ページ
- ・ 昭文社
- ・ 八王子市地図
- ・ 八王子市観光マップ